

## 広島県地域がん登録における5年相対生存率について

### 1 趣旨

平成14年10月から開始した「広島県地域がん登録事業」において、部位別の5年相対生存率を算出し、今年度発行の報告書で公表した。

### 2 背景

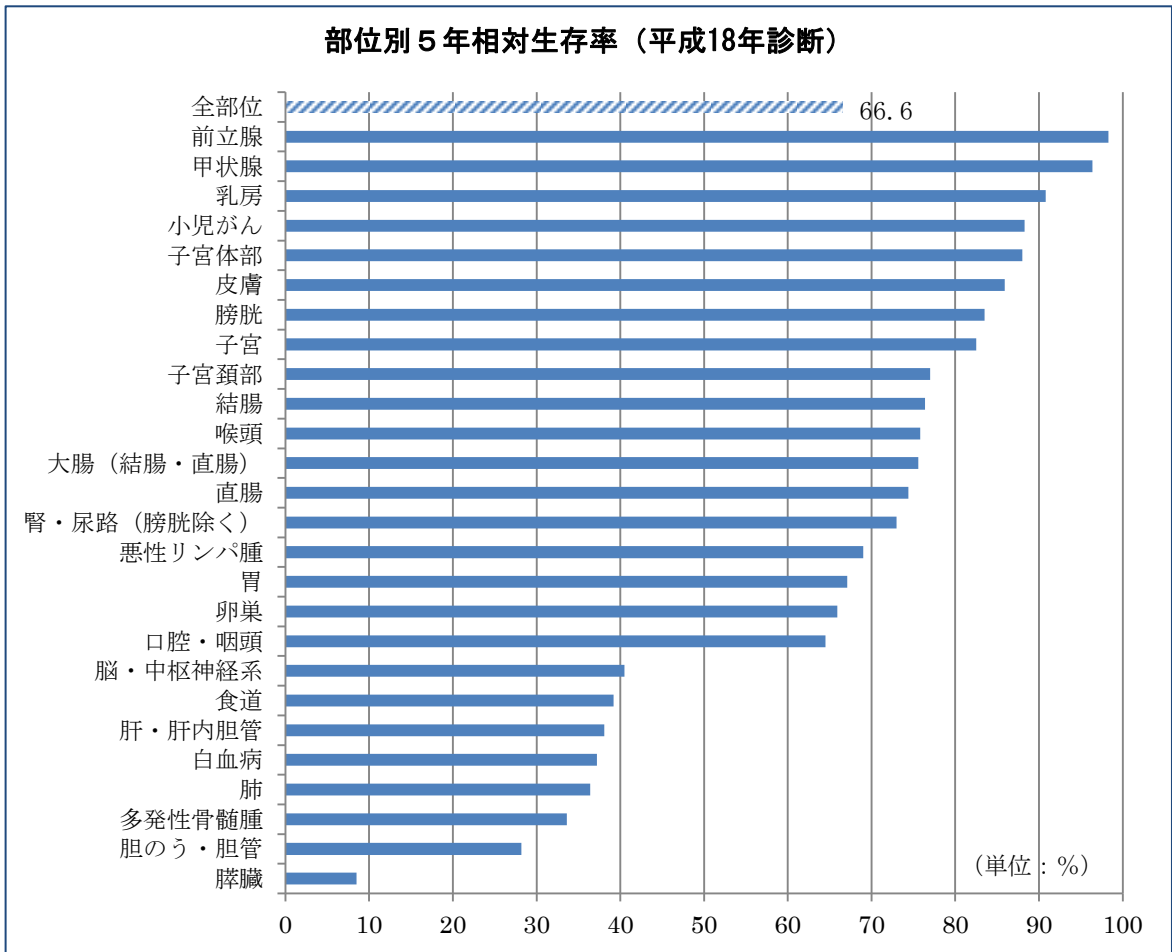
- 地域がん登録届出件数の増加等により登録精度が向上した。
- がんを登録された者に対する「住民基本台帳ネットワーク」を利用した生存確認調査（平成24年1月から開始）により、生死に関するデータの信頼性が向上した。

H24年 生存確認調査	H23年 ← 5年	H22年 4年	H21年 3年	H20年 2年	H19年 1年	H18年 診断
----------------	--------------	------------	------------	------------	------------	------------

### 3 5年相対生存率（平成18年診断）

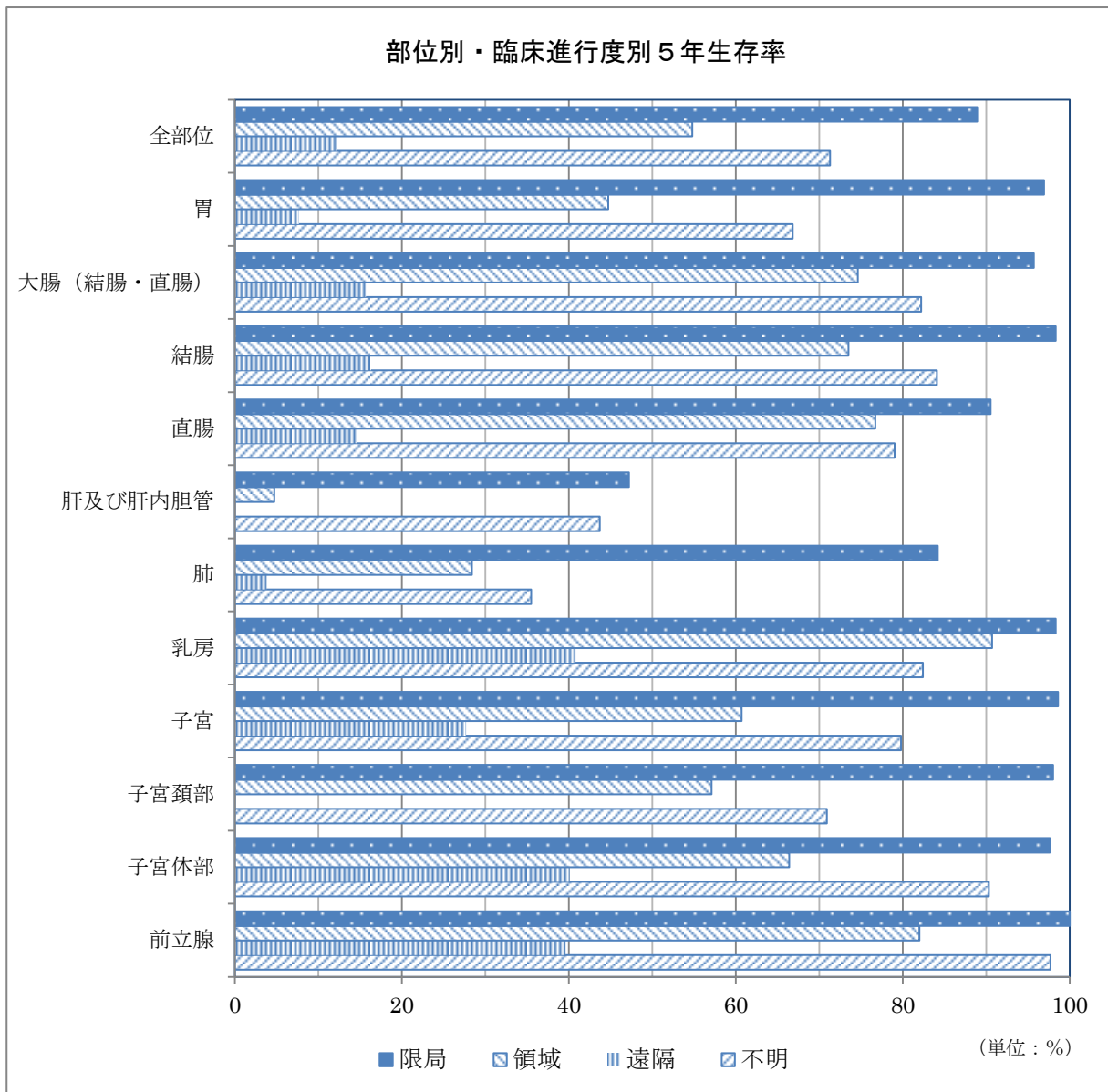
- 平成18年診断患者における、全がん5年相対生存率は66.6%であった。
- 部位別にみると、前立腺、甲状腺、乳房が90%以上、子宮体部、皮膚、膀胱で80%以上と高かった。胆のう・胆管が28.2%、膵臓は8.5%と極めて低かった。

がんと診断された人のうち5年後に生存している人の割合が、日本人全体で5年後に生存している人に比べてどのくらいの割合かを示したもの。  
**【相対生存率】** = 実測生存率（がん患者） / 期待生存率（対象者と同じ性別・年齢の一般集団）



※ 診断から5年後に生存している確率であり、個々の患者について表すものではない。

- 臨床進行度別に見ると、「限局」群の5年相対生存率は88.9%、「領域」群では54.8%、「遠隔」では12.2%であった。
- 部位別に「限局」群の生存率を見ると、前立腺では100%であり、胃、結腸、直腸、乳房、子宮においても90%以上と良好であった。肺においても「限局」群は84.2%と比較的良好であったが、肝及び肝内胆管では47.2%と低かった。

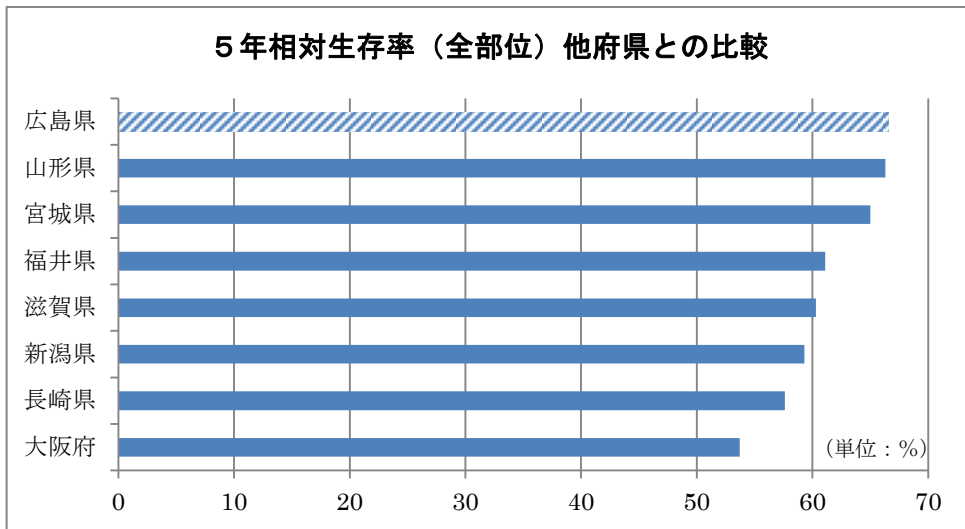


#### 4 今後の取組

- 5年相対生存率をはじめとする地域がん登録データを適切に情報提供し、広島県全体での取組を促進させる。
- がん医療を評価する指標の一つとして、広島県の医療水準の向上に活用する。
- 生存率の低いがんへの対策を強化するなど、がんで死亡する県民の減少に取り組む。

## 5 他の算出実施府県との比較

宮城県, 山形県, 新潟県, 福井県, 滋賀県, 大阪府, 長崎県 (7府県のみ)



※ 他府県のデータは, 平成15~17年診断患者の5年相対生存率である。

## 6 地域がん登録の仕組み

(1) 実施主体 : 広島県

(2) 登録業務の流れ

- ① がんを診断した場合, 医療機関は, 病名や治療内容等に関する情報を届出る。  
〔収集業務: 広島県医師会に委託〕
- ② この情報をデータベースに登録し, 分析を行う。  
〔集計・解析業務: 放射線影響研究所に委託〕

